

第1回 町田市下水道事業審議会 議事要旨

日 時：2024年11月12日（火）13：30～15：30

場 所：町田市庁舎 4階 政策会議室

出席者：委 員 長岡 委員（会長）、市古 委員（副会長）

鵜川 委員、大久保 委員、入山 委員、内藤 委員

武藤 委員、若林 委員、勝山 委員、神保 委員

事務局 守田（下水道部長）、西澤（下水道経営総務課長）、

原田（下水道整備課長）、西澤（下水道管理課長）、

松井（水再生センター所長）、布施（水再生センター 担当課長）、

下水道経営総務課 金子、北原、水村、古賀

結城、熊谷、中島、高橋、北本

下水道整備課 北原、宮澤、村上

下水道管理課 大植、渡邊

傍聴者： 0名

次 第：（1）委員委嘱

（2）会長、副会長の選出

（3）諮問

（4）下水道部長挨拶及び管理職員自己紹介

（5）本審議会の進め方について

（6）議案審議

【議案第1号】「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）
の進捗管理状況の振り返りと今後解決に取り組んでいくべき課題の整理

① 計画期間（2021～2022年度）における「重要業績評価指標」
（財務の視点）の分析・評価結果の振り返りについて（資料1）

② 「重要業績評価指標」（財務の視点）の分析・評価結果の振り返りに基
づく経営・財務上の課題整理について（資料2）

③ 2021年～2023年度における事業計画進捗状況の振り返りと評
価（資料3）

④ 事業計画進捗状況の振り返りと評価に基づく課題の洗い出しと整理
（資料3）

（7）その他

資 料：事前配布

【資料1】 計画期間（2021～2022年度）における「重要業績評価指標」
（財務の視点）の分析・評価結果の振り返りについて

【資料2】 「重要業績評価指標」（財務の視点）の分析・評価結果の振り返りに
基づく経営・財務上の課題整理について

- 【資料 3】 「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略） 3
ヵ年の進捗状況と評価結果を踏まえた今後の課題
- 【参考資料 1】 町田市下水道事業審議会条例
- 【参考資料 2】 町田市下水道事業審議会 開催スケジュール表

当日配布

『第 1 回 町田市下水道事業審議会 次第』
『下水道事業審議会 委員名簿』
『下水道事業審議会 資料一覧』

（1）【次第 1】委員委嘱

石阪市長から、町田市下水道事業審議会委員の委嘱を行った。

（2）【次第 2】会長、副会長の選出

互選により、町田市下水道事業審議会会長として長岡委員が、続いて副会長として市古委員が選出された。

開会にあたり、石阪市長から挨拶があった。

（3）【次第 3】諮問

石阪市長が長岡会長へ諮問し、諮問書が手渡された。

（4）【次第 4】下水道部長挨拶及び管理職員自己紹介

守田下水道部長から挨拶があった後、下水道部各課管理職から自己紹介を行った。

（5）【次第 5】本審議会の進め方について

事務局から会議の成立を報告するとともに、本審議会の進め方について説明を行った。

（6）【次第 6】議案審議

議案第 1 号「未来につなぐ下水道事業プラン（町田市下水道事業経営戦略）」の進捗管理状況の振り返りと今後解決に取り組んでいくべき課題の整理について審議を行うにあたり、西澤下水道経営総務課長から、①「町田市下水道事業会計 2021 から 2022 年度の『重要業績評価指標』の分析・評価結果の振り返り（資料 1）」について説明を行った。

→資料 1 について、以下の順番で資料に沿って説明を行った。

＜経営の健全性＞①経常収支比率（％）、②流動比率（％）、③企業債残高対事業規模比率（％）

＜経営の効率性＞④経費回収率（％）、⑤汚水処理原価（円）、

＜老朽化の状況＞⑥有形固定資産原価償却率（％）、⑦管渠老朽化率（％）

■主な質疑応答・意見等

- 「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」の資料について、記載の説明だけでは不安を感じ

る。今後使用料改定をする場合は、多くの人が分かるような説明や資料づくりに努力していただきたい。

●今後の課題として「汚水処理費の削減や経費の削減に努めている」とあるが、具体的にどういった削減策を考えているか教えていただきたい。

→町田市バイオエネルギーセンターで発電される電気を下水処理場へ送電する仕組みに切り替えることで、電気料金の削減につなげている。その他、仕様の見直しなどにも取り組んでいる。

●どのように経費削減をしていくかが非常に難しい中、ぎりぎりのところまで取り組んでいることは理解している。その中で収入増と経費削減と両方取り組むことで収支のバランスを取っていくことになるだろう。今後とも取り組みを続けていただきたい。

●もし使用料を改定していくとなると、収入増と経費削減にこれだけ取り組んでいるが、それでも不足するということを見せる必要があると思う。今後資料を作る際、配慮していただきたい。

●経営戦略を改定する際、10年後、20年後の人口減少が論点になると思う。どの程度の整備が本当に必要かを予測することはなかなか難しい。さらに、一度下水道管を作るとそれを維持していかなければならない。現在、経常収支比率や経費回収率には、一般会計繰入金が入っているが、これがなくなると経常収支比率も赤字になる可能性がある中、本来下水道使用料で負担すべき分と市が負担すべき分とを分かりやすく説明をしていただきたい。

●経常収支比率には、雨水に係る繰入金も含まれるか。

→経常収支比率には入っている。雨水に係る分は公費ということで基準内繰入をしているが、基準外として繰入れている分も分流式下水道に係る経費でまだ繰入が入っている状況だ。分流式に係る繰入金がなくなった分は下水道使用料で補っていくことになるため、分かりやすく示していく必要がある。どれくらいの金額が足りなくなるか次回以降提示できるようにしたい。

●経常収支比率と経費回収率の説明で動力費の高騰の話があったが、この指標については補正をかけ、動力費の影響が本当はどこまであったかを見ていただくのも良いと思う。今後、建設費が上がることはあっても下がることはないというのは明白な中、公共事業は軒並みその影響を受けている。工事費や物価高の影響については、きちんと分離して説明できるような工夫が必要だと感じた。

→現行の計画策定時には、労務費の高騰があまり見えていない状況であったため反映されていないが、今回の経営戦略改定においては、労務単価の上昇が事業費に反映されていることが見える形で提示したいと思っている。その見方の高い・低いについてもこの審議会にて議論していただきたいと思っている。

●経常収支比率についてグラフから傾向が読めず、町田市だけが非常に複雑な傾向を示しているように見え、２０２３年度に他市と逆転すると読めなくもない。そうであれば努力の結果だと思うので市民にＰＲすることもできると思うが、どうか。

→経営戦略上では、２０２１年度と２０２２年度に成瀬クリーンセンターで大規模な工事を実施する予定だった。２０２１年度は計画どおり工事を実施したため費用の方が多くかかり、経常収支比率がかなり落ち込んだが、２０２２年度は動力費の高騰により予定していた修繕をかなり抑えて実施したことと、コロナ禍の巣ごもり需要で下水道使用料が予想していたより増えたこと、国からの動力費高騰に対する補助金が出たことで経営が改善した。

２０２３年度の収入は２０２２年度並みだが、労務単価や動力費が上がっている分、経常収支は下がっている。他市との比較・分析については、次回以降示していきたい。

●企業債残高対事業規模比率に関して、１０年後、２０年後の投資計画とその資金調達について今どのように見通しを立てているか教えていただきたい。

→下水道管についてはある程度平均的に整備してきたため平準化されているが、処理場の事業費は規模が大きく乗かったときにどう平準化させていくのか考えていく必要がある。

●処理場の老朽化の状況についてどう見せていくかも考えながら使用料改定を考えるとと思うが、外部へ向けて発信するときには、管渠老朽化率だけではなく処理場の老朽化についても見せていった方が良いと思う。

→（他意見）検討していただきたい。

西澤下水道経営総務課長から、議案第１号②『重要業績評価指標』の分析・評価結果の振り返りに基づく経営・財務上の課題整理（資料２）」について説明を行った。

■主な質疑応答

●「流動比率」に関して「業務活動によって生み出された資金が蓄積されず、企業債の償還費などとして外部へ流出していると考えられます。」と資料に説明があるが、根本的な問題があるという認識で良いか。

→年度末の現金預金残高に関しても、分流式にかかる市からの繰入金を現金預金がぎりぎりになるまで減らしていこうと動いてきたため、比較団体と比べても手持ちのお金が少なくなっている。

原田下水道整備課長から議案第１号③「２０２１年～２０２３年度における事業計画進捗状況の振り返りと評価」及び④「事業計画進捗状況の振り返りと評価に基づく課題の洗い出しと整理（資料３）」のうち、基本方針「１．環境に配慮した施設整備・より良い環境づくりの推進（１）住環境の改善」について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

●「未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導」の項目について、３ヵ年の進捗状況の評価が「△」となっているが、３年間の実績値合計は計画にある件数より多い。評価は「△」で良い

か。

→接続の啓発は、繰り返し行う中で、本来であればもう少し件数が増えると思われることと、期を捉えて評価する必要があることから「△」とした。

●「未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導」の項目について、普及啓発活動を実施した活動量ではなく、活動を受けて市民の方が接続したという件数となっており、事業と取り組み内容と数値目標との関係が気になるが、どうか。

→接続を目標としており、水洗化100パーセントを目指すべきと考えている。

●接続している中に、単独処理浄化槽は含まれるということで良いか。汲み取りもあるか。

→污水管整備済のところは、単独処理浄化槽や汲み取りも含め、公共下水道に切替える。

●取り組み内容には、「水洗化率」ではなく「污水处理人口普及率」を記載した方が良いのではないか。

→検討する。

●「グリーストラップの適正な維持管理方法の周知」に関して、「バイオ燃料」のような形で飲食店が使った油を再利用することは検討課題に入っているか。

→グリーストラップですくい取った油は、産業廃棄物としての処理を指導しているので、今のところバイオ燃料などとして使うことは検討していない。

→保育園などでは、飲食店で使った油を業者が回収し、石鹼に変える事業を行っているところもあるが、業務量にばらつきがあり、遠方での作業になるためあまり広がっていない取り組みだと思う。

●「未接続家屋への污水管接続の普及啓発指導」に関して、「1,300件の未接続家屋があり、接続件数の伸びは不十分」という評価になっているが、目標に対して十分に取組んでいるのだから「○」でいいと思う。

●「グリーストラップの適正な維持管理方法の周知」について、目標が「管清掃延長（緊急）」とあるが、管清掃延長により緊急が減ってきているということか。また、その数字はまだ出せる段階にないということか。

→この数値は緊急の管清掃延長と計画延長を合わせた数値で、周知をすることにより少しずつ減らしていくという取り組みだ。

●目標が「0.52km削減する」と書いてあるが、どういう意味か。

→これは10ヵ年の目標だ。2022年度と比較し2023年度は良い結果となっている。

●また途中段階であるから削減効果が出せるような状況にないという認識でよいか。

→そうだ。

●管清掃延長の指標とグリーストラップの適正な維持管理方法の周知とは、事業に対する目標とするには少し遠いような気がする。グリーストラップの適正な維持管理方法の周知を事業とするならば、適正な維持管理が行われているかというような指標の方がいいように思うがどうか。

→検討する。

基本方針「1.（2）河川水資質向上へ貢献」について、西澤下水道管理課長から説明を行った。

■主な質疑応答

●浄化槽の設置は市と個人のどちらが行うのか。

→個人の設置だ。

●「高効率散気装置の導入」という指標に対して、目的が「処理水の向上」となっているが、どちらかという目的は「省エネ」ではないだろうか。

→効率の良い機器に替えることにより、適正な水質を確保したいという目標が大きいと考えている。

●効率良く適正な水質を確保したいということであれば、「処理水質」を指標にしてはどうか。

→両クリーンセンター内に高度処理施設は一部あるが、この取組みは標準法の池で行っているため、水質の改善について大きな目標が立てにくい。

●目標はなくてもいいと思う。標準法の池の水質が良くなっていることを示す方が、見える化されると思う。検討いただきたい。

→検討する。

●浄化槽維持管理費補助金に関して、利用率が上がらないのはどういう理由か。

→町田市では清掃だけではなく、点検と法定検査の3大義務を基準にしていることが考えられる。

基本方針「1.（3）地球温暖化対策と資源の循環利用の小施策」について、松井水再生センター所長から説明を行った。

■主な質疑応答

●「高効率機器の導入を進める」とあるが、焼却炉などの大型更新は今後20年の見込みに含まれているか。焼却炉の更新はすでに一巡しているか。

→現在、鶴見川クリーンセンターの焼却設備の更新工事を進めている。標準的な流動焼却炉を過給式の焼却システムとするもので、来年度の完成を目指し5ヵ年工事で進めているところだ。

●それ以外の大型更新は当面ないということで良いか。

→焼却設備に関しては、向こう10年位予定はない。ポンプ・ブロー類、水処理設備についても老朽化している順に更新を進めていくという計画はすでにあり、順次機器を高効率に切替えていく。

●「エネルギー・資源の有効利用」に関して、今後の課題で「燃料化または肥料化に努めていく必要がある」と書いてあるが、焼却炉はできているとすると、次の更新に合わせて燃料化とか肥料化を考えていくという認識で良いか。

→肥料化については昨年度から検討を進めており、現在国土交通省の方で進めている汚泥の分析調査と大型案件形成支援により、町田市にマッチしている肥料化の進め方の検討を進めている。町田市では、両クリーンセンターとも焼却設備まで持っているため、焼却灰もしくは脱水したときのろ液からリンを抽出するような活用方法を模索しているところだ。

基本方針「2. 災害に強いまちづくりの推進・安心な暮らしの構築（1）浸水対策の推進①浸水対策事業」について、西澤下水道管理課長から説明を行った。

→質疑なし

基本方針「2.（2）地震対策の推進」について、原田下水道整備課長から説明を行った。

■主な質疑応答

●元旦に発生した能登半島地震から、教訓とすることやフィードバックできることはあったか。

→污水管の緊急輸送路等のうち計画した箇所の耐震化は完了したところだが、雨水管の耐震化工事はまだ実施できていない。液状化の可能性が高い緊急輸送路などにおいて、マンホールが浮き上がるような被災の可能性を把握しながら、優先すべき工事をなるべく早く進めていきたい。

●災害対策においても上下一体とよく言われるようになってきたが、水道事業を行っている東京都との連携はあるか。

→上下水道一体の計画が原則として示されているが、事業者が完全に異なっているため、下水は下水、上水は上水でそれぞれ計画を作りすり合わせをする形になると思う。下水道の部局に上水道の情報はほとんど入ってこないこともあり、一体化は非常に難しいと考えている。

●上水道に関する情報も入手し、避難所の水道がどうなっているかなど、市民目線で知っていただきたい。

→情報を収集し、連携できるところは連携していきたいと考えている。国や東京都の動向を見て、どういった形で連携できるかを探していきたい。

基本方針「3. 経営の効率化及び健全化・より良い下水道サービスの導入（1）効率的・効果的な維持管理の推進」について西澤下水道管理課長から説明を行った。

→質疑なし

基本方針「3.（2）計画的な改築更新」について、松井水再生センター所長から説明を行った。

■主な質疑応答

●2030年度までの計画があるということだが、その先の2040年、2050年、2060年までの計画は作られているか。

→これから策定する予定だ。管渠について、効率的な改築計画をこれから作っていきたい。

■全体をとおしての主な意見等

●今後経営を考えていくとき、国土交通省もよく「ヒト・モノ・カネ」と言っている中、「ヒト」の話がなかったように思う。担い手のような話は下水道全体で動いていると思うので、下水道事業を担う市職員のことも含め是非トータルで考えていただきたい。

●会議室が狭く、今回は説明を背中越しに聞くような席の配置だった。次回は説明者の顔を見ながら説明が聞けるとよい。

→（他意見）プロジェクターを使って説明者の顔や資料を投影するなど、次回開催時は工夫していただきたい。

●市民に広報していく際は、一般の方にも分かりやすい資料作りを心がけていただきたい。

（7）【次第7】その他

事務局から、事務連絡を行った。

閉 会